

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミア I		
所在地	滝川市東町7丁目219番地6号		
自己評価作成日	平成29年9月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500170-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームには左右のユニットの出入り口中央に広い採光性のよいホールがあり、窓からは山や田園景色が見られ四季折々の情景が利用者の目を癒しています。ホールには各所に椅子やソファを置いて入居者が自由に動かして自分の座りたい場所に座って居眠りをしたりしています。又、当ホームの食事は献立を決めてないので、食材購入もスタッフがそれぞれ自由に調理も自由に行っているため、それぞれ異なったスタッフの味付けが利用者の舌を楽しませ好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高速道路滝川インターや大型ショッピングモールの程近くの閑静な住宅街に農園がある広い敷地を有する平成15年1月開設の鉄骨造平屋建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。地域住民に参加を呼びかけて野外炭焼き食事会の開催、誕生会や敬老会で家族との交流の機会を設け、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。また、社会福祉協議会のワークキャンプに協働して、子ども達や高校生の体験学習の受け入れや太鼓演奏、日本舞踊、大正琴やフラダンス、歌謡ショー等の地域ボランティアの協力を得ながら、事業所の持つ機能を地域に還元する取り組みや地域の人々との協力連携に努めている。戸外に出かける支援では、一人ひとりのその日の希望に沿って、赤平のらんフェスタや秩父別のバラ園の鑑賞、滝川神社の祭典やさくら見物など普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝夜勤者から日勤者への送りの終了後、出席者でケア理念を復唱している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、申し送り時の唱和や定例会議等を通じてその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。屋外炭焼き食事会の時は、地域住民にも案内を配り参加を呼びかけた。	社会福祉協議会のワークキャンプに協働して、子ども達や高校生の体験学習の受け入れや太鼓演奏や日本舞踊等の地域ボランティアの協力を得ながら、地域の人々との協力連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所職員がキャラバンメイト養成研修を受講し認知症サポーター講座を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・入居者状況を報告し意見を求め、実践に活かせる事は日常生活支援計画に盛り込んでいる。	運営推進会議を定期的で開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をケアサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の連絡はEメールで対応しているが、状況によっては電話か直接訪問し協議している。	市担当者とは、日常業務を通じて情報を提供して指導や助言を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、利用者の安全上止む得ない利用者については、ガイドラインに従った対応をしている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為をコミュニケーションや接遇マナー等の内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修に参加させ、虐待をテーマとした内部研修を行った。又、入居者の身体に痣や日々の生活に怯え等変化がないかを常に観察し見過ごすことのないよう職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが学ぶ機会があれば参加したい。活用する利用者が居れば包括支援センター職員と連携し必要な情報を共有し支援を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、関係書類を大まかに説明し一度契約者に預け内容を確認して頂き後日不明点等聴取し自署捺印して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時もしくはケアプラン説明時に都度意見を聞いて改善が必要と判断した場合については即座に対応している。又、利用者の意見については都度即座に対応している。	本人・家族等、来訪者が意見や苦情等を言いつぶすことができるように申し出先を明示し、そこでの意見や苦情等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度主任以上が出席する定例会議の際に話し合い意見を聞き、必要によっては代表者の意見を聞いて働きやすい職場環境を整えている。又、月Iのスタッフ会議開催時にも職員に意見を求めている。	スタッフ会議や定例会議、日常業務を通じて職員の意見や要望、アイデア等を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算取得要件のキャリアパス要件・職場環境要件を満たしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の職場内外の研修計画を作成し、職員の経験年数に応じて研修に参加させ研修に当たった費用はすべて法人が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域で開催する研修会に参加し又、他グループホームの見学実習を受け入れたり当ホームからも他グループホームへ見学実習へ行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、心配事や不安な事を聞いてサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学し入居を進めていく段階で家族の要望や訴えを真摯に受け止め家族の想いを共感している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを聞いて、双方が満足できるように介護—サービス計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	編み物を教わったり、茶碗拭き・洗濯物のたたみ・調理の下ごしらえ等、できることを手伝って頂き関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の誕生日会やホームの行事には家族にも参加して頂き家族と共にお祝いしている。又、家族の都合で受診できない時は家族の代わりにホームで対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム利用者に面会者が来たときは、面会簿に記入して頂き本人の確認をとってから案内している。又、電話の取り次ぎや郵便物も取り次いでいる。入居以前より利用していた床屋・病院等	誕生日会や敬老会で家族と一緒に過ごす機会を設けたり、滝川神社祭の祭典やひまわり畑見物、紅葉狩りやさくら見物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流を見守ったり、関係を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで生活していた時の写真を届けたり、家族からの電話の問い合わせ等にはわかる範囲で情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的スタッフ会議により、各スタッフから入居者情報を入手し検討しまとめている。又、家族や友人からも情報を入手することもある。	一人ひとりの思いや要望、生活歴等の把握に努め、スタッフ会議や日常業務を通じて職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当ケアマネージャー・医療機関担当者から面談や電話・情報提供書等で把握している。又、馴染みの私物などがあつたら、積極的に持ってきてほしいとお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況をアセスメントシートに記入し、利用者の生活状況を把握しスタッフで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に情報を提供したり聞いたりして、もしくは入居以前のケアマネに相談又、聴取したり内容を関係職員と検討しまとめ作成している。	本人・家族の意向や要望、医師や看護師からの指導や助言、モニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに利用者個々の一日の生活状況を記入し、申し送りの時などに、行動・言葉・身体状況に変化があつた場合などケアプラン見直しの時はスタッフ間で情報を共有し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者受診時の車椅子送迎・生活用品の購入支援・突発的な受診時の家族に変わる受診対応支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受診時の付添や行事の際にお手伝いしていただき利用者の見守り等をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、居室担当者が経過報告書に日々の生活状況や変化・特変事項等をまとめ家族に渡しかかりつけ医に確認してもらい、治療の変更や指導を記入して頂いている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関や常勤看護師との連携、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に特変があれば、昼夜を問わずホーム在中の正看護師に連絡報告し指示をもらい対応している。又、応急処置の指導等を行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の生活状況や支援内容に関する情報を医療機関に提供している。又、病院からの問い合わせについても即座に対応し退院の際には医療機関の医療相談室とも連携しながら行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に係る指針を説明し、重度化に伴う同意書を得ている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催される普通救命講習の開催があれば職員に交代で参加させている。又、内部研修において感染処理に関する実践教育を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画書を作成し2月に2回に分け地域グループホームと連携して全員参加で関係者を講師に招き訓練を行った。	昼夜を想定した年2回の火災避難訓練を実施している。また、非常災害対策計画書を作成して、地域の同業者と連携して訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の外部研修には毎回職員を参加させ、接遇をテーマにした内部研修も毎年行い利用者との関わり等について指導教育を行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないようコミュニケーションや接遇マナー等の内部研修会開催などで職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の思いや希望を言い表しやすい様な言葉かけをして接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々の利用者はそれぞれの一日を過ごしている。寝たい人は寝て居室で過ごす人は居室で居間で編み物する人は編み物をしている。希望があれば毛糸を購入している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診時・外出時などはその季節に合った服を選んだり、利用者からの依頼があれば靴や服を購入している。定期的に美容室のカットを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好や能力を把握しそれぞれに合わせ、食材の彩り等も食欲が増すよう工夫し、利用者のできることはお願いして一緒に見守りながら行っている。又、好き嫌いのある入居者については好物を個別に購入し提供している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事準備や後片付けなどしている。また、農園で採れた野菜を収穫して、食事に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントシートより食事量・水分量を把握し、摂取量の少ない場合は、本人の嗜好の物を食べやすく飲みやすくして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの能力に応じて見守り支援している。できない利用者についてはスポンジや口腔ティッシュを使って義歯の脱着から洗浄まで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントシートで時間を確認しトイレ誘導・パット交換・排泄サインを見て誘導介助を行っている。	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を夜勤者・日勤者へ送り排便の無い利用者については下剤の量を調整しながら見守っている。又、日頃の食事には食物繊維を含んだ野菜等を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回程の入浴を楽しんで頂いているが、本人の体調や気分のすぐれない時は、曜日時間に関係なく本人の希望があれば応じて見守り支援を行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回を目安に柔軟に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室と共用空間の温度湿度は温湿度計で安眠できるよう管理している。採光性の良いホールでは日差しが入りソファで寝ている人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の種類・効能をファイルしている。又、服薬は職員同士で確認し服用前に本人にも名前・日付け・朝昼夕を確認してから服用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にレクレーションを行い、できる方にはかるたの読み手してもらったり、ぬり絵や編み物等を行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花々の咲く時期には計画を立てて出かけているが、全員揃っての外出は個々の価値観もあるため難しい。又、希望があればスーパーとかお祭りにも出掛けている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、赤平のらんフェスタや秩父別のバラ園の鑑賞、滝川神社の祭典やさくら見物など普段は行けないような場所でも戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、家族の承諾の上で道の駅やその他の売店で食べ物や飾り物を購入し精算の際、職員は見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、相手方に確認後、電話を繋いであげたり希望があれば、はがきを購入し投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・居室・廊下・ホールは毎日清掃し除菌消毒を施している。ホール内には季節の飾りつけ(雑祭り・端午の節句・クリスマス)を行い季節を感じて頂いている。温湿度計を共用空間に設置しスタッフが管理している。採光性の良い窓の前には椅子やマッサージチェアを置きいつも外の景色を眺めている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、広くゆったりとした共用空間は、清潔感が漂い行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・ホールには複数の椅子やソファを置いて個々の利用者が座りながら居眠りしたり横になったりしている。又、食事の時の座る配置も他の入居者との相性を考えながら座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、環境変化による不安を解消するために、できるだけ見慣れた(時計・家具・アルバム・衣装箱・等)を家族に頼み持ってきてもらっている。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入り口には表札や名札を掲げ部屋を間違えないようにしたり、廊下・トイレ・浴室には手すりを設け安全に配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミアⅡ		
所在地	滝川市東町7丁目219番地6号		
自己評価作成日	平成29年9月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500170-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームには左右のユニットの出入り口中央に広い採光性のよいホールがあり、窓からは山や田園景色が見られ四季折々の情景が利用者の目を癒しています。ホールには各所に椅子やソファを置いて入居者が自由に動かして自分の座りたい場所に座って居眠りをしたりしています。又、当ホームの食事は献立を決めてないので、食材購入もスタッフがそれぞれ自由に調理も自由に行っているため、それぞれ異なったスタッフの味付けが利用者の舌を楽しませ好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらい				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらい				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらい				2 職員の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 職員の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらい				2 家族等の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族等の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が			○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝夜勤者から日勤者への送りの終了後、出席者でケア理念を復唱している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。屋外炭焼き食事会の時は、地域住民にも案内を配り参加を呼びかけた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所職員がキャラバンメイト養成研修を受講し認知症サポーター講座を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・入居者状況を報告し意見を求め、実践に活かせる事は日常生活支援計画に盛り込んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々の連絡はEメールで対応しているが、状況によっては電話か直接訪問し協議している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、利用者の安全上止む得ない利用者については、ガイドラインに従った対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修に参加させ、虐待をテーマとした内部研修を行った。又、入居者の身体に痣や日々の生活に怯え等変化がないかを常に観察し見過ごすことのないよう職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが学ぶ機会があれば参加したい。活用する利用者が居れば包括支援センター職員と連携し必要な情報を共有し支援を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、関係書類を大まかに説明し一度契約者に預け内容を確認して頂き後日不明点等聴取し自署捺印して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時もしくはケアプラン説明時に都度意見を聞いて改善が必要と判断した場合には即座に対応している。又、利用者の意見については都度即座に対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度主任以上が出席する定例会議の際に話し合い意見を聞き、必要によっては代表者の意見を聞いて働きやすい職場環境を整えている。又、月Iのスタッフ会議開催時にも職員に意見を求めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算取得要件のキャリアパス要件・職場環境要件を満たしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の職場内外の研修計画を作成し、職員の経験年数に応じて研修に参加させ研修に当たった費用はすべて法人が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域で開催する研修会に参加し又、他グループホームの見学実習を受け入れたり当ホームからも他グループホームへ見学実習へ行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、心配事や不安な事を聞いてサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学し入居を進めていく段階で家族の要望や訴えを真摯に受け止め家族の想いを共感している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを聞いて、双方が満足できるように介護—サービス計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リネン交換・居室の清掃を一緒に行っている。洗濯物を一緒にたたんだり、ゴミ袋を一緒にたたんだりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の誕生会やホームの行事には家族にも参加して頂き家族と共にお祝いしている。又、家族の都合で受診できない時は家族の代わりにホームで対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム利用者に面会者が来たときは、面会簿に記入して頂き本人の確認をとってから案内している。又、電話の取り次ぎや郵便物も取り次いでいる。入居以前より利用していた床屋・病院等		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流を見守ったり、関係を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで生活していた時の写真を届けたり、家族からの電話の問い合わせ等にはわかる範囲で情報を提供している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期のスタッフ会議により、各スタッフから入居者情報を入手し検討しまとめている。又、家族や友人からも情報を入手することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当ケアマネージャー・医療機関担当者から面談や電話・情報提供書等で把握している。又、馴染みの私物などがあつたら、積極的に持ってきてほしいとお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況をアセスメントシートに記入し、利用者の生活状況を把握しスタッフで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に情報を提供したり聞いたりして、もしくは入居以前のケアマネに相談又、聴取したり内容を関係職員と検討しまとめ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに利用者個々の一日の生活状況を記入し、申し送りの時などに、行動・言葉・身体状況に変化があつた場合などケアプラン見直しの時はスタッフ間で話し合いし又、情報連絡ノートを使用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者受診時の車椅子送迎・生活用品の購入支援・突発的な受診時の家族に変わる受診対応支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受診時の付添や行事の際にお手伝いしていただき利用者の見守り等をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、居室担当者が経過報告書に日々の生活状況や変化・特変事項等をまとめ家族に渡しかかりつけ医に確認してもらい、治療の変更や指導を記入して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に特変があれば、昼夜を問わずホームに在中の正看護師に連絡報告し指示をもらい対応している。又、応急処置の指導等を行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の生活状況や支援内容に関する情報を医療機関に提供している。又、病院からの問い合わせについても即座に対応し退院の際には医療機関の医療相談室とも連携しながら行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に係る指針を説明し、重度化に伴う同意書を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催される普通救命講習の開催があれば職員に交代で参加させている。又、内部研修において感染処理に関する実践教育を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画書を作成し2月に2回に分け地域グループホームと連携して全員参加で関係者を講師に招き訓練を行った。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の外部研修には毎回職員を参加させ、接遇をテーマにした内部研修も毎年行い利用者との関わり等について指導教育を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の思いや希望を言い表しやすい様な言葉かけをして接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	散歩の希望があればホームの回りや、中庭を散歩している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診時・外出時などはその季節に合った服を選んだり、一緒に洋服の買い物に行ったりしている。定期的に美容室へ行ったり又訪問カットに来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や果物等の食材を使用し五感を刺激できるよう工夫している。又、硬い副食等希望があれば刻んだり一口大、又は軽くミキサーにかけ提供している。準備や片付けは出来る利用者はおりません。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントシートより食事量・水分量を把握し、摂取量の少ない場合は、本人の嗜好の物を食べやすく飲みやすくして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの能力に応じて見守り支援している。できない利用者についてはスポンジや口腔ティッシュを使って義歯の脱着から洗浄まで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声掛け誘導・夜間帯センサーでポータブルトイレの使用状況を確認し見守り対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時に無調整牛乳やおやつにヨーグルト等の乳製品を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週3回程の入浴を楽しんで頂いているが、本人の体調や気分のすぐれない時は、曜日時間に関係なく本人の希望があれば応じて見守り支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室と共用空間の温度湿度は温湿度計で安眠できるよう管理している。採光性の良いホールでは日差しが入りソファで寝ている人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の種類・効能をファイルしている。又、服薬は職員同士で確認し服用前に本人にも名前・日付け・朝昼夕を確認してから服用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2週に1回の両ユニット合同のゲームを行ったり、ユニット内で百人一首やとら髭ゲームを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学に行っている。職員と一緒に本人の洋服や靴の買い物に行ったり、行きつけの美容室にも行くときは送迎を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な方は家族が居室に電話を付けている。電話番号の問い合わせがある時は電話帳で調べてあげている。定期的に絵葉書の届く方については直接手渡し一緒に絵葉書を眺めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・居室・廊下・ホールは毎日清掃し除菌消毒を施している。ホール内には季節の飾りつけ(雛祭り・端午の節句・クリスマス)を行い季節を感じて頂いている。温湿度計を共用空間に設置しスタッフが管理している。採光性の良い窓の前には椅子やマッサージチェアを置きいつも外の景色を眺めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・ホールには複数の椅子やソファを置いて個々の利用者が座りながら居眠りしたり横になったりしている。又、食事の時の座る配置も他の入居者との相性を考えながら座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、環境変化による不安を解消するために、できるだけ見慣れた(時計・家具・アルバム・衣装箱・等)を家族に頼み持ってきてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入り口には表札や名札を掲げ部屋を間違えないようにしたり、廊下・トイレ・浴室には手すりを設け安全に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームカルミア

作成日: 平成 29年 11月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	家族等との信頼関係構築を職員間で意思統一しているが、改善する機会がまだある。	内部研修会を含めて職員間の対応をスキルアップしていく。	・コミュニケーション及び接遇マナーの研修会を通じて、スキルアップを図っていく。 ・職員からの提案、要望を採り入れた研修を開催していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。